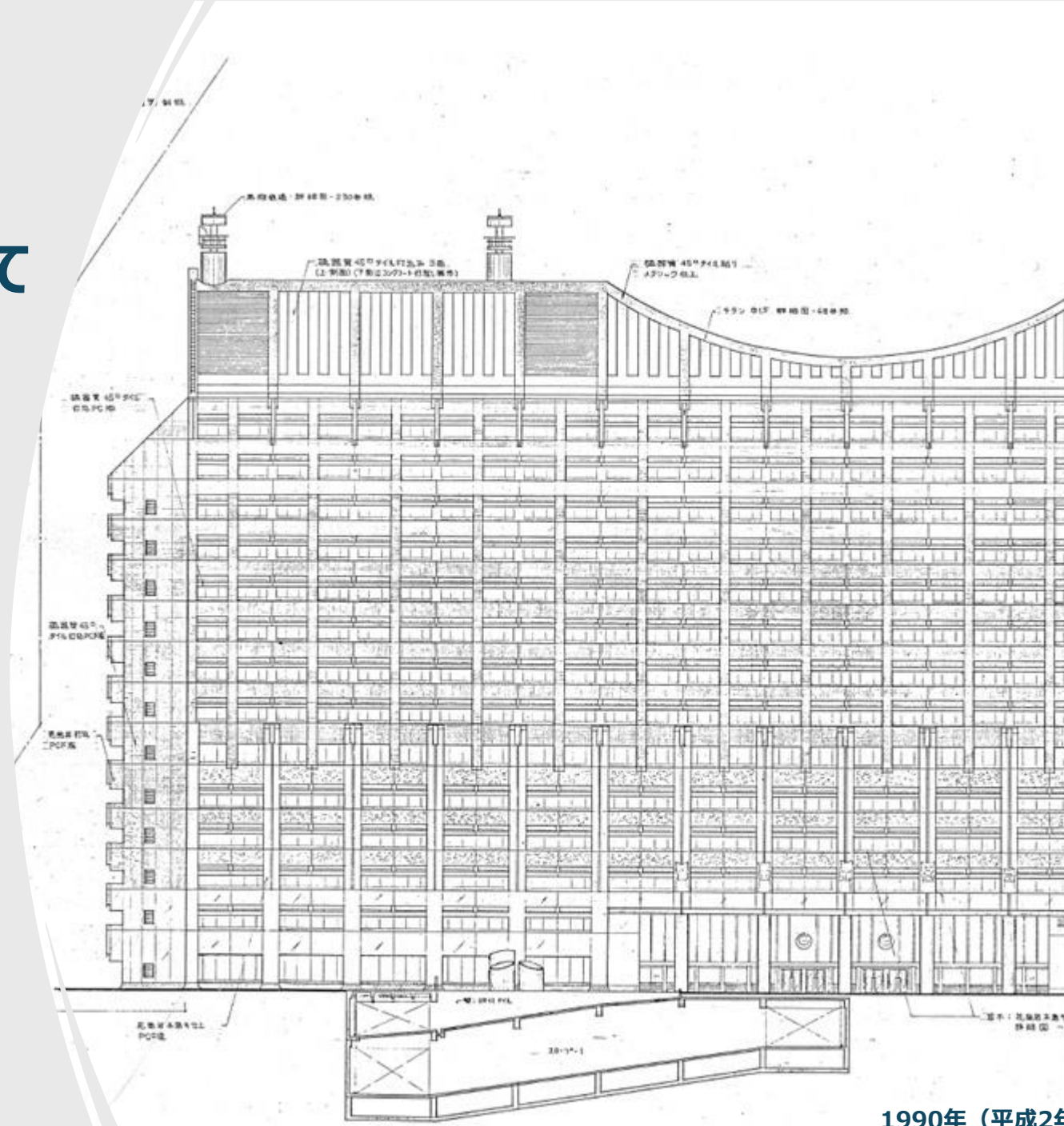


# 本庁舎（行政棟）改修の概要について

令和8年1月



## 本庁舎（行政棟）改修の概要

# 本庁舎（行政棟）改修の概要

- 1 事業期間 : R5～R12年度（8年間）
- 2 総事業費 : 220億円（R5試算）
- 3 改修工事 : R6～R12年度（予定）
- 4 改修の目的
  - (1) 県庁舎の長寿命化
  - (2) 省エネ化・法令対応
  - (3) ユニバーサルデザインの拡充（誰でも利用しやすい多様性に対応した庁舎づくり）
  - (4) 執務環境の改善

- 5 実施方法（居ながら工事）

本庁舎の長寿命化に向けて、既存の県有施設を仮移転先として活用し、本庁舎の機能を維持しつつ、庁舎内・庁舎外への仮移転を繰り返しながら、効率的、合理的、経済的な改修を行う。

※仮移転先：旧県立図書館、三重城合同庁舎、南部合同庁舎、本庁舎地下1階食堂跡、等

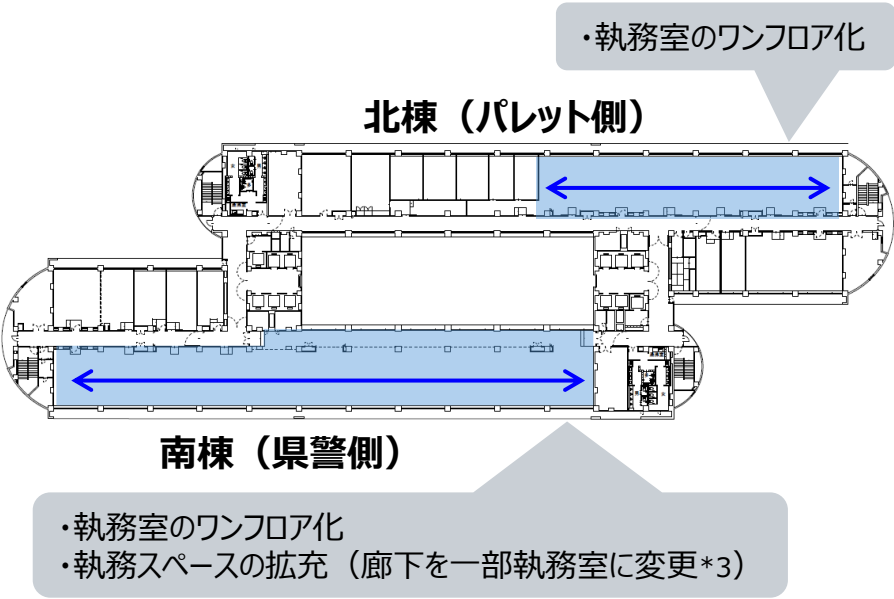
- 6 改修・仮移転期間：R8.1月～R12年度末（予定）

## 7 改修の具体例

目 的	具 体 例
県庁舎の長寿命化	防水工事、屋外建具、配管類、空調設備、消防設備の更新など
省エネ化・法令対応	照明器具のLED化、天井の落下防止
ユニバーサルデザインの拡充	バリアフリー化、サイン計画（多言語化・ピクトグラム・色彩）、バリアフリートイレの拡充、トイレ構成の見直しなど多様性への各種対応
執務環境の改善	<ul style="list-style-type: none"><li>・執務室のワンフロア化</li><li>・部局間の執務スペースの平準化</li><li>・ユニバーサルレイアウト*の導入（デスクなどの什器の統一化）</li><li>・オープンスペースの設置（コミュニケーションの活発化、多様な働き方への対応）</li></ul> ※DX化による業務・手続の効率化、ペーパーレス化に向けた取組みとの連動を図る。

\* ユニバーサルレイアウト  
役職席を決めず横並びに配置し、デスクを横一列にするレイアウト。組織変更（人員の増減）に対応しやすい、オフィスのスペースを有効活用できる、テレワークなどの多様な働き方にも対応しやすいなどのメリットがある。

## 8 改修後のイメージ（基準階）



\*3 対象フロアは7階～13階

# 改修後の主な変更点

改修後の主な変更点は以下のとおり

	項 目	改 修 前	改 修 後	備 考
施設の 利便性 の向上	照明機器	蛍光灯	LED	法令対応・省エネ化
	ユニバーサルデザイン	一部対応	ピクトグラム、多言語化、色彩計画	誰でも利用しやすい庁舎づくり
	多目的トイレ	・主に車いす利用者に対応 ・特定の階に設置	・オストメイト、多様な性などにも対応 (バリアフリースイールの導入) ・各階に2カ所ずつ設置	全体10カ所⇒29カ所に増設
	女性トイレブース	各トイレに2カ所	各トイレに4カ所	各階4⇒8カ所に増設
	温水洗浄付便座	多目的トイレにのみ設置	すべての便座に設置	節水型器具へ更新
	授乳スペース	なし	あり	沖縄県福祉のまちづくり条例
執務環境の 改善	廊下と執務室の間の壁	あり	南側（県警側）7～13階は撤去	執務空間の創出
	課と課の間の仕切り	あり	なし（ワンフロア化）	各課専用からフロア共有へ最適化
	什器（執務デスクなど） 座席のレイアウト	・規格・サイズが不統一 ・島単位でのレイアウト	・規格・サイズを統一 ・ユニバーサルレイアウト（統一レイアウト）	組織再編に迅速に対応 空間効率の向上
	オープンスペース	なし	あり	・多様な働き方に対応 ・連携強化による新たな取組の創出 ・民間事業者等との協働・共創の推進

## 長寿命化、省エネ・法令対応（例）

## 長寿命化、省エネ・法令対応（環境負荷低減）

### 設備の更新 （長寿命化・省エネ化）

- ✓ 冷凍機、空調機、ポンプ、ファンの更新
- ✓ 年間電力消費量（2017年度比）  
約540万kWh → 約505万kWh
- ✓ 削減量 約35万kWh（▲7%）

+

### 照明設備のLED化 （省エネ化・法令対応）

- ✓ 庁内すべての照明機器をLEDに更新
- ✓ 年間電力消費量（2017年度比）  
約180万 kWh → 約71万 kWh
- ✓ 削減量 109万kWh（▲61%）

2017（H29）年度比 **エネルギー約22%削減**

✓ 年間電力使用量 **▲144万 kWh（▲22%）**

→ 電気料金換算 **▲4,560万円**

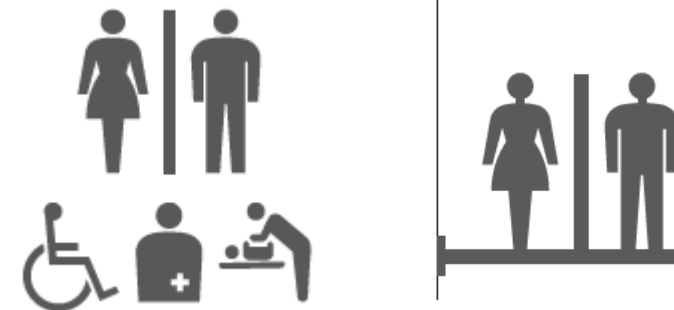
※2024（R6）年時点の単価：31.67円/kWhにて試算

→ CO<sub>2</sub>排出量換算 **▲102万 kg-CO<sub>2</sub>/年**

## ユニバーサルデザインの拡充（例）

# ユニバーサルデザイン・バリアフリー（サイン計画）

- ✓ 東西で色彩のコントラストを付け、利用者が分かりやすい庁舎へ
- ✓ 色覚異常の方へも配慮した色彩計画
- ✓ サインの多言語化により、利便性の向上を図る
- ✓ ユニバーサルフォントを用いることで、視認性の向上を図る
- ✓ JIS規格のピクトグラムを用いることで、直観的に理解できるサイン計画へ
- ✓ 階数表示に「しまくとぅば」を採用



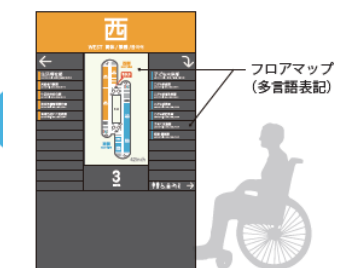
ピクトグラム（JIS規格）



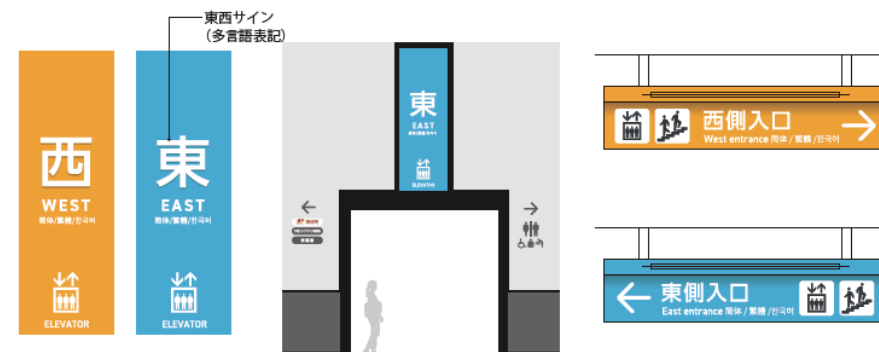
サインの多言語化



しまくとぅば表記



利用者がわかりやすい色彩計画





# ユニバーサルデザイン・バリアフリー（トイレ）

- ✓ バリアフリートイレを各階に2カ所ずつ設置
- ✓ 各階の女性トイレブースを2カ所ずつ増設（2⇒4カ所）
- ✓ 節水型便器を用いることで、使用水量を約1/2に削減
- ✓ 温水洗浄付便座の導入

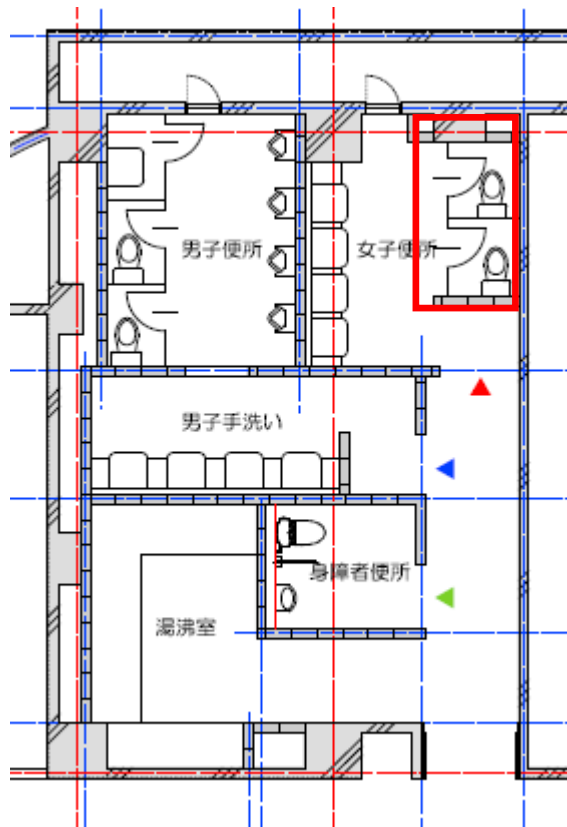
## 「バリアフリートイレ」

- ・車椅子使用者 ・発達障害など同伴が必要な人
- ・乳幼児連れの人 ・オストメイト使用者
- ・多様な性 などに配慮したトイレ

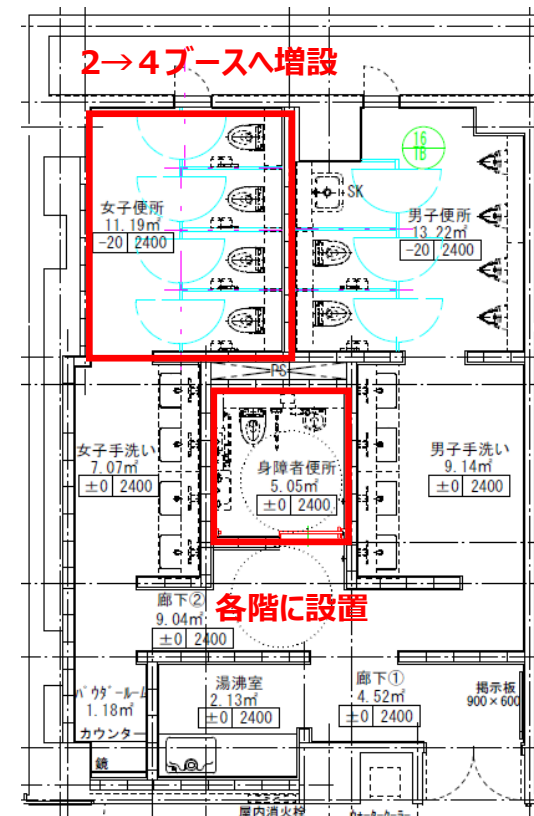
（イメージ）



## ▼トイレの構成の見直し



改修前



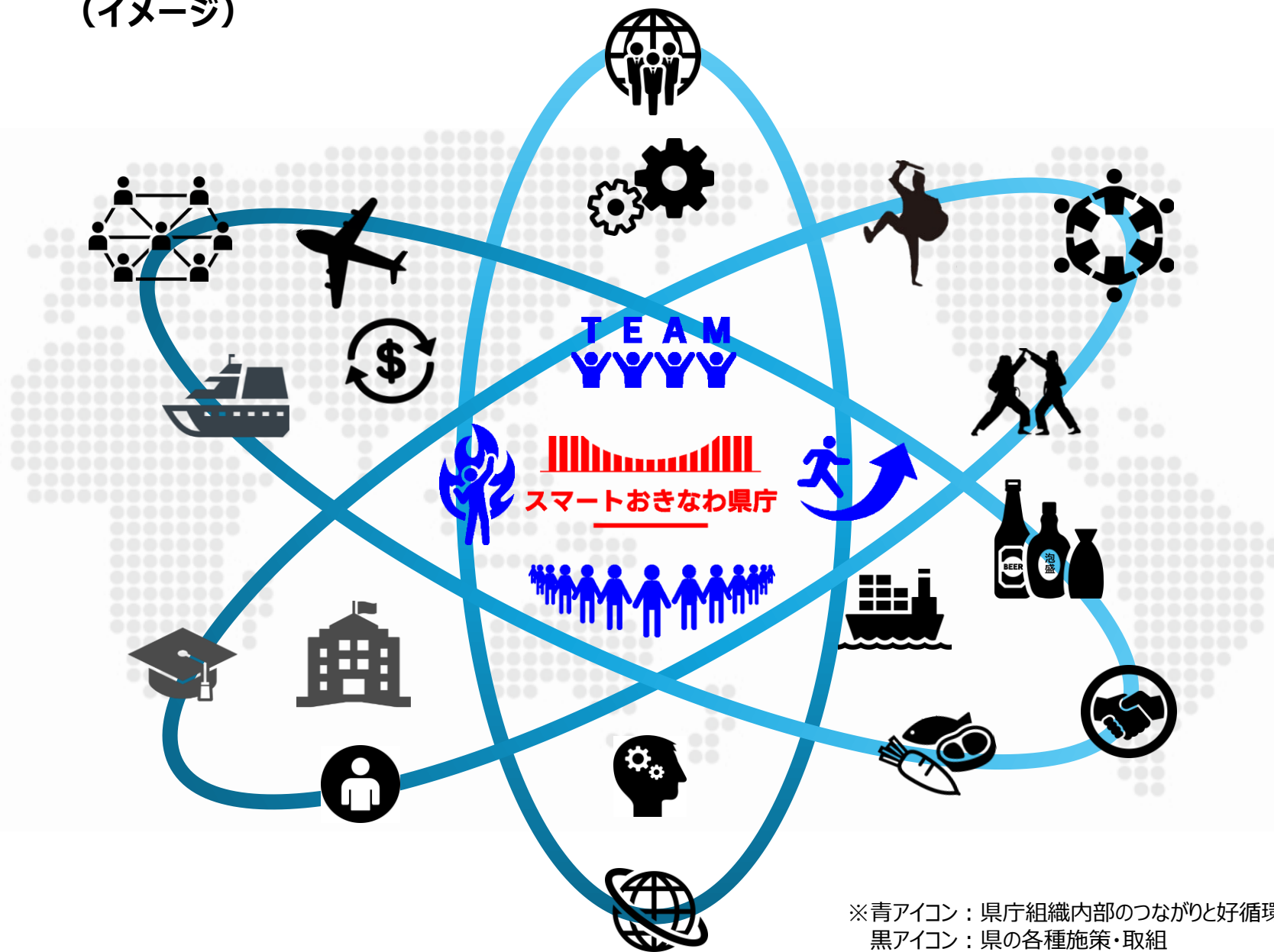
改修後

※ トイレは各階に東側・西側の2カ所設置されており、それぞれ構成の見直しを行います

# ｜ オフィスコンセプト

**(イメージ)**

**-つながりが共感を生み、未来を共創する拠点へ-**



※青アイコン：県庁組織内部のつながりと好循環  
黒アイコン：県の各種施策・取組  
青ライン：各分野とのネットワーク  
背景の地図：県内外・世界とのつながり

# 執務環境の改善

## ー改修後の執務室のイメージー



# 執務エリア全体イメージ

## 基準階PLAN

南棟（県警側）※執務室と廊下の壁を撤去



### マグネットスペース

自然と人が集まる  
コミュニケーションエリア  
※複合機、オフィス用品集約

### 執務スペース

ワンフロア化  
ユニバーサルレイアウト  
(什器の仕様を統一化)

執務室と廊下の壁を撤去

車いすの通路幅にも配慮した通路幅

### 機能エリア

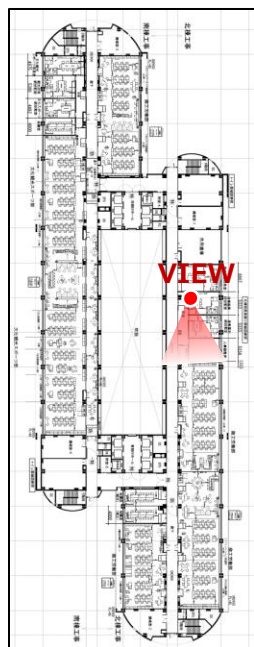
打合せスペース



# 執務エリア全体イメージ

## 基準階PLAN

### 北棟（パレット側）



#### マグネットスペース

自然と人が集まる  
コミュニケーションエリア  
※複合機、オフィス用品集約

#### 執務スペース

ワンフロア化  
ユニバーサルレイアウト  
(什器の仕様を統一化)

※北側の廊下は維持

車いすの通路幅にも配慮した通路幅

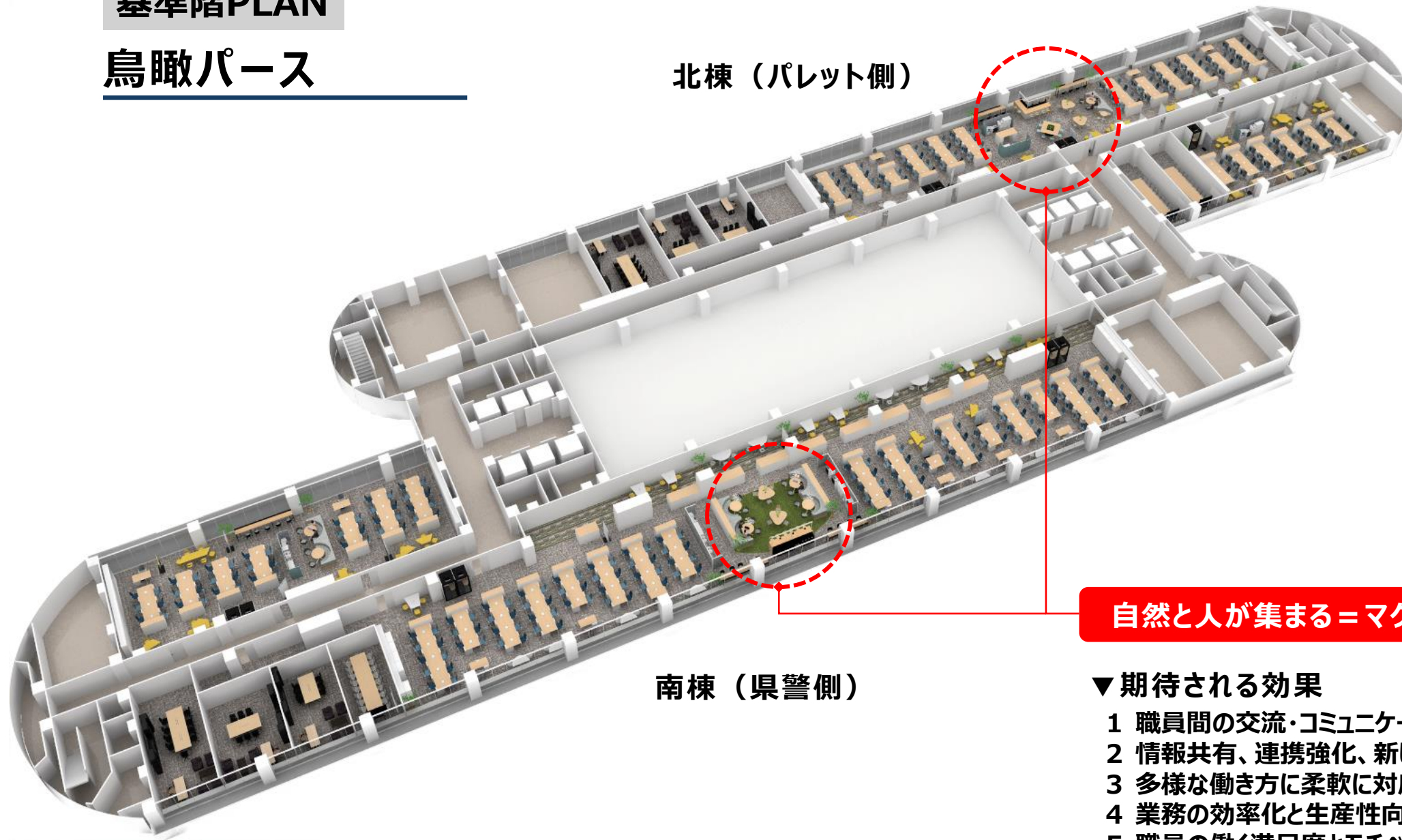
#### 機能エリア

打合せスペース



## 基準階PLAN

### 鳥瞰パース



北棟（パレット側）

南棟（県警側）

自然と人が集まる＝マグネットスペース

#### ▼ 期待される効果

- 1 職員間の交流・コミュニケーションの活性化
- 2 情報共有、連携強化、新しいアイデアの創出
- 3 多様な働き方に柔軟に対応
- 4 業務の効率化と生産性向上
- 5 職員の働く満足度とモチベーション向上

※各部局へのヒアリングにより、スペースの活用方法を決定します

## ■ 執務環境の改善 ーオープンスペース（案）のイメージー





地下階 食堂跡地

オープンスペース（案）

鳥瞰パース

※R12年度末予定の本庁舎改修後のイメージです  
（改修期間中は執務室の仮移転先として使用）

※ランチタイムは食堂、それ以外の時間帯はオープンスペースとしての利用を想定



## 地下階 食堂跡地 オープンスペース（案）

### ▼ 期待される効果

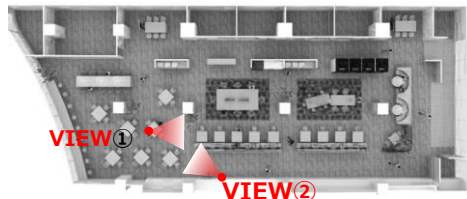
#### 【県庁内部のつながり】

- ・職員間の交流・コミュニケーションの活性化
- ・部局間の情報共有、連携強化 → 新しい取組
- ・Web会議など多様な働き方に柔軟に対応
- ・業務の効率化、生産性向上 → ワークライフバランス
- ・モチベーション、帰属意識の向上 → 人材確保

#### 【外部とのつながり】

- ・県民、民間事業者、関係機関等との協働・共創の推進
- ・地域のニーズに応じた施策の展開
- ・新しい価値の創造、イノベーションの創出

- ▼
- ✓ 持続可能な組織環境
  - ✓ 県民サービスの質の向上
  - ✓ 社会課題の解決



VIEW ①



VIEW ②

